

## 資料6

### 各WG 活動報告資料

第8回あきたスマートシティ・プロジェクト推進協議会

場所:秋田市役所 正庁

平成24年11月19日(月)

## 情報統合管理基盤WG 協議会報告資料

## 基盤5施設の電力使用量（5月～9月）

情報統合管理基盤構築事業でセンサーを設置した5施設について、各施設のエネルギー使用削減状況について報告する。

（老人福祉センター・サンライフ秋田・保健センターは電力一括契約のため、まとめて表記）

単位はkWh	老人福祉センター サンライフ秋田 保健センター	まんたらめ	秋田テルサ	秋田美術工芸 短期大学	合計
平成20年度	263,467	199,310	504,252	456,110	1,423,139
平成21年度	258,297	139,995	492,796	443,300	1,334,386
平成22年度	267,169	183,293	510,009	490,570	1,451,041
平成23年度	223,547	148,639	401,937	374,020	1,148,143
平成24年度	221,457	128,763	420,021	402,540	1,172,781
昨年比	0.9%	13.4%	-4.5%	-7.6%	-2.1%

過去5年間の同期間の電気使用量を比較すると、昨年度は震災の影響による業務の縮退を含めて過度な節電がおこなわれていたことがわかる。本年のエネルギー使用状況は必要な照明・動力を使用しながらも、震災前に比べて十分な削減効果が維持されていることがわかる。

対象施策について、引き続き効果測定をおこない暖房切り替え後の運用最適化のため追加施策の検討・実施をおこなっていく。

## グリーンツーリズムWG 協議会報告資料

---

## 本年度の活動報告および25年度活動予定

### 活動報告

- 「食農観ビジネス等推進重点支援地域形成事業」(秋田県)に「みなと土崎 ふぐのまち活性化協議会」を実施主体として応募、採択を受ける
- 24年度事業計画に基づき、下記の取り組みを実行(エコツーリズム関連部分)
  - ✓ 観光資源掘り起こし調査実施(観光資源リストおよび詳細情報リストの作成)
  - ✓ SNSを用いたコミュニティ参加型のツアープラン作成
    - 秋田市民によるツアープラン企画ワークショップ(2回)開催
    - ワークショップで企画したツアープランをFacebookおよびWebで公開投票実施
  - ✓ 投票で獲得票数が多かったコースを市民参加で歩くパイロットイベント実施

### 25年度活動予定

- 今年度のパイロットイベント結果を反映し、新規ツアーメニュー開発
- 新規ツアーメニューのパイロット実施
- ツアー販売に向けた体制づくり

## 平成24年度 着地型観光の構築に関する取り組み

### 【第1回ワークショップ】



### 【Facebookを使った公開投票】

1. 各チームで検討したまちあるきのコース、あなただったらどのツアーに歩いてみたいですか？

コース名	投票数
土崎港エスカルゴコース	最高
社長チームコース	次点
GTOコース「江戸～明治・北前船編」	3票
GTOコース「昭和～現代編」	1票

### 【第2回ワークショップ】



### 【パイロットイベント開催情報のYahoo News掲載】

秋田市土崎エリアのまちあるきツアー「土崎港・歴史と食のまちあるき」が11月11日に開催される。(秋田経済新聞)

【画像】「ふぐのまち」として売り出し中の土崎エリアの飲食店メニュー「フグフライ」

「土崎の魅力伝えよう」と、みなと土崎ふぐのまち活性化協議会(秋田市大町3)が企画した。市民とノースアジア大学観光学科の学生らが同エリア内のまちあるきルート4案を考案。ウェブ上で人気投票を行った結果、1番人気が高かったルート案を採用した。

## 環境リーダー・ビジョンWG 協議会報告資料

---

## WG活動報告

---

### ・ 秋田らしさの整理と具体化

- 秋田市90歳ヒアリングのヒアリングメモ(20件)を分析し、戦前の自然と共に生きてきた持続可能なライフスタイルを50種類程度のコンセプトで再整理(8月7日WG開催)。
- 「昔のあきたの暮らし」と「未来のあきたの暮らし」としてイラスト化の検討(8月3日WG開催)。
- 秋田市との打ち合わせ(8月30日、9月27日)
- 秋田市協力のもと昔のあきたの資料収集
- デザイナーとの打ち合わせ(10月3日、10月18日)
- 11月18日シンポジウムにて展示。



自然と共に生き続ける町 -90歳ヒアリングにより描く昔の秋田市の暮らし-

デザイン 城下鹿乃子、大友楽



自然と共に生き続ける町 — 90歳ヒアリングにより提案する未来の秋田市の暮らし—

デザイン 城下鹿乃子、大友楽

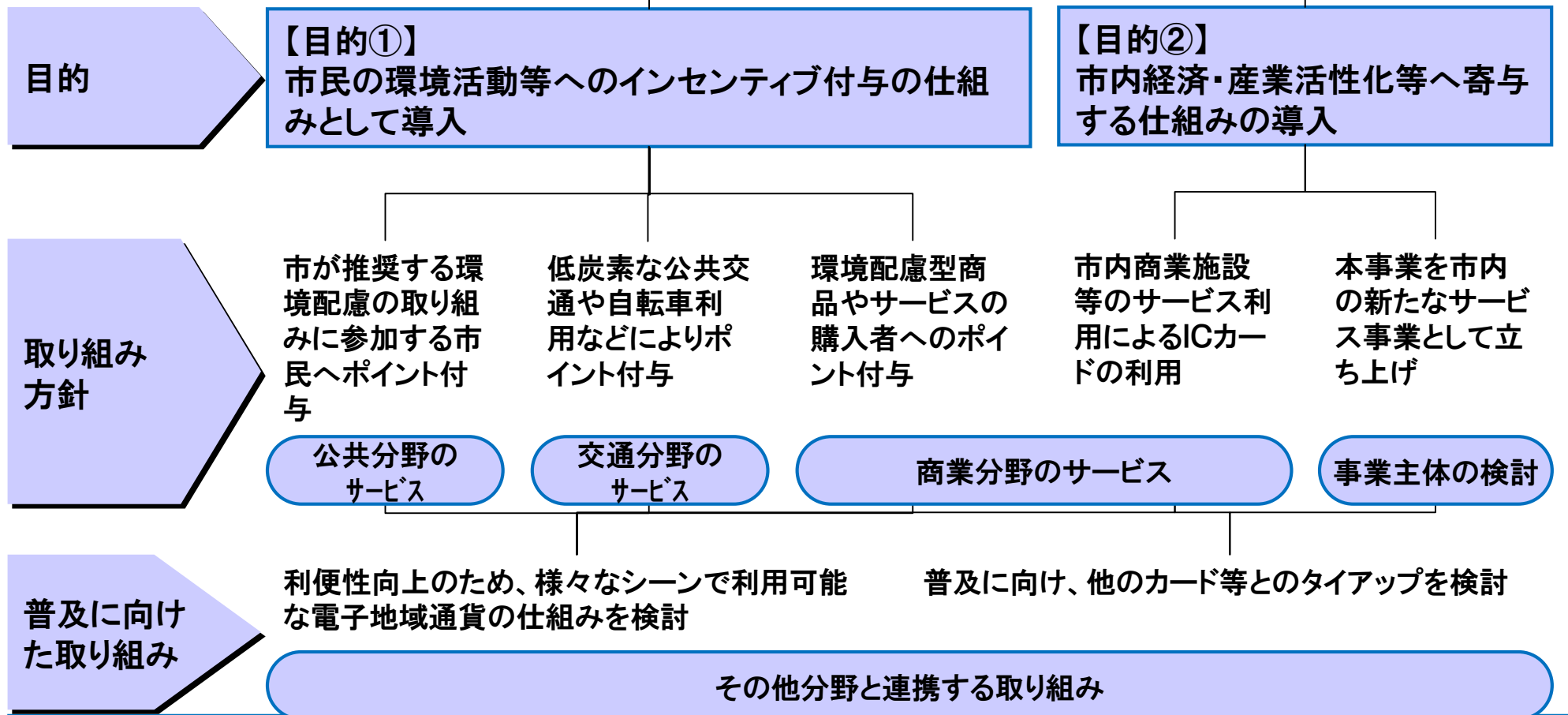


## 低炭素モビリティ・電子地域通貨WG 協議会報告資料

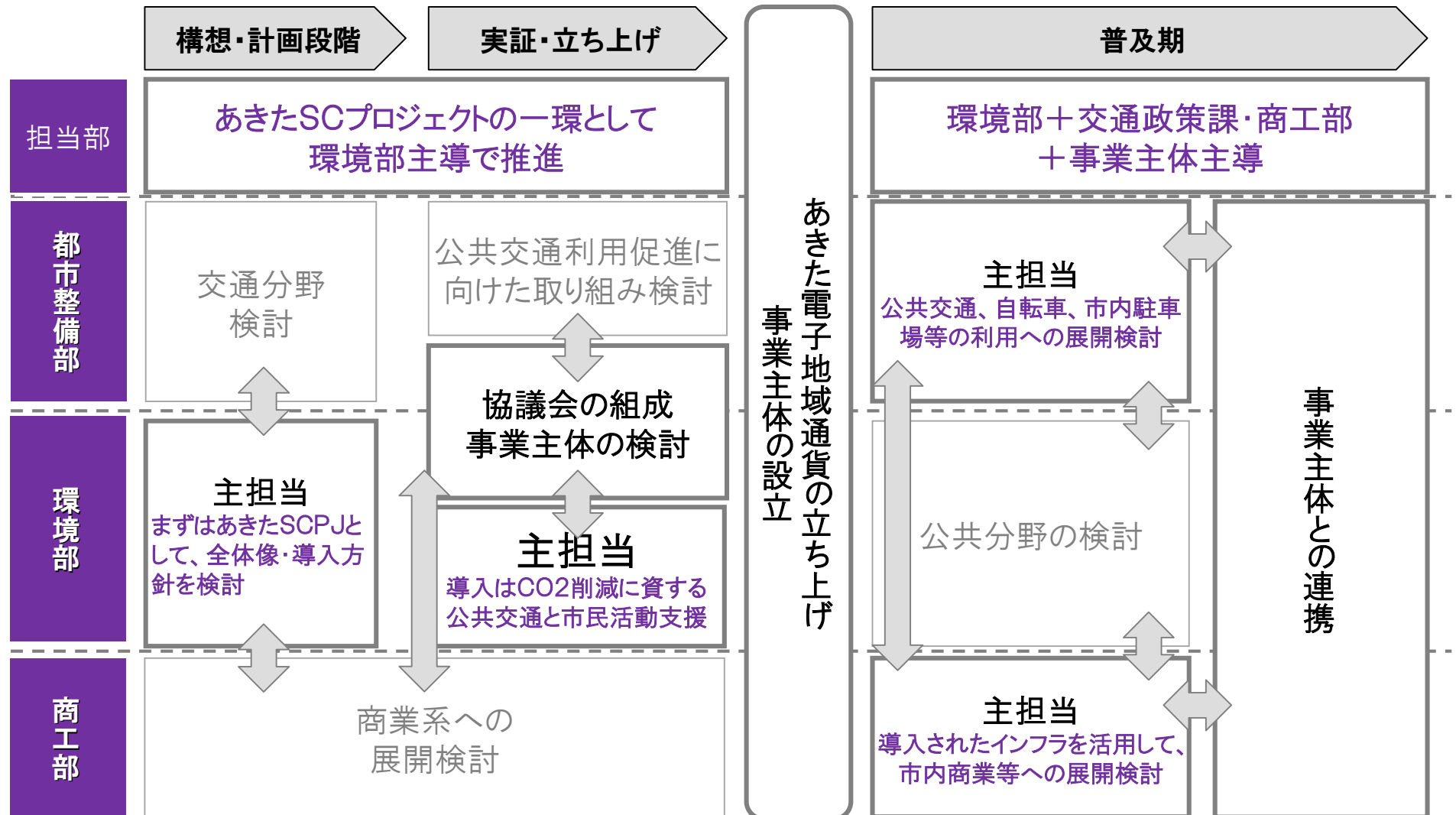
## ①電子地域通貨WG報告

# 1. あきたスマートシティプロジェクトでの「電子地域通貨」の意義

## あきた版電子地域通貨の導入



## 2. 電子地域通貨導入に向けた庁内での役割分担(案)



### 3. 今後のWGの進め方について(案)

#### 検討の進め方案

★今年度の進め方について合意（協議会）

第1回協議会（6/4）

①事務局会議

電子地域通貨導入システム検討調査（仮）

①他地域の事例紹介

・導入事例調査

第1回WG  
（6月19日）

メンバー組成

②あきた版電子地域通貨の全体像

・将来的な公共交通ICカードや低炭素モビリティなど、市  
全域での利用想定等

第2回WG（8/9）

**【現在】導入方針・スケジュール案・システム内容の検討（事務局等中心9月～）**

②事務局会議

③全体像を実現するための導入ステップ

④あきた版電子地域通貨システムの要件整理

・初期段階でのシステム、機器  
・提供サービスの要件

⑤システム毎の性能比較検討と評価

・事業者ヒアリング、対象システム等の比較検討の実施

⑥導入に向けた課題整理・事業主体の組成

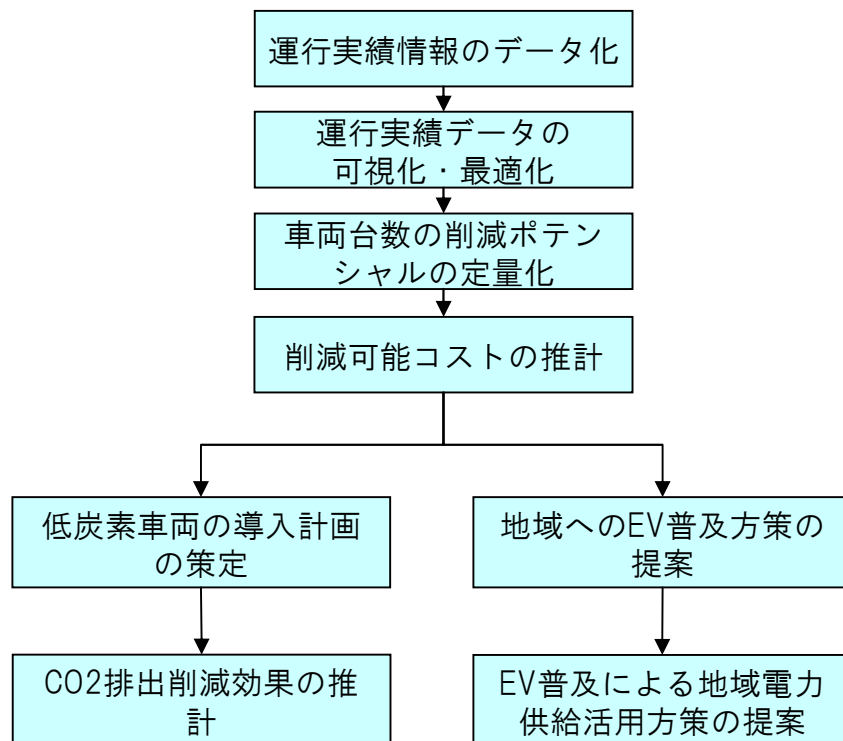
第3回WG～  
（適宜検討内容の  
個別意見交換等）

## ② 公用車低炭素化調査検討業務について



## 今年度事業(事前調査)の成果

## 事業内容



調査・分析・評価

↑ 次年度以降の展開  
↓ に対する構想素案

## 事業成果

- 可視化により、約2割程度の終日未使用車両が顕在化
- 最適化により、さらに約2割程度の使用不要車両が顕在化

削減ポテンシャルが全車両台数の約4割程度見出され、

- ✓ 一部売却による資産コストの低減
- ✓ 残車両のリースバックによるランニングコストの低減

による削減可能コストが導出

上記の削減可能コストを原資として、左に示す将来展開構想を実行に移すための具体的方策の検討が必要

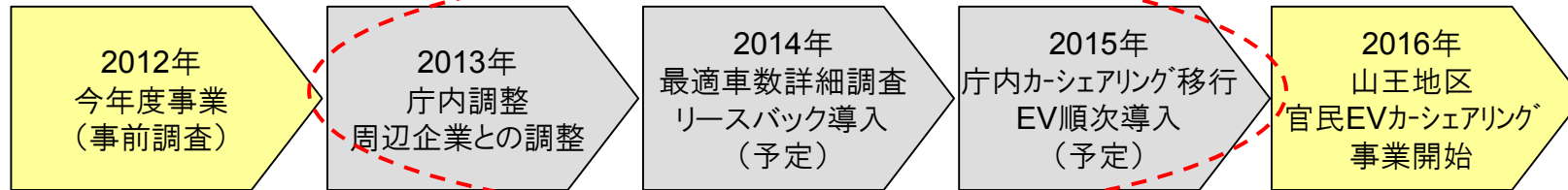
## 次年度以降の展開検討

事業のキモとなる要件

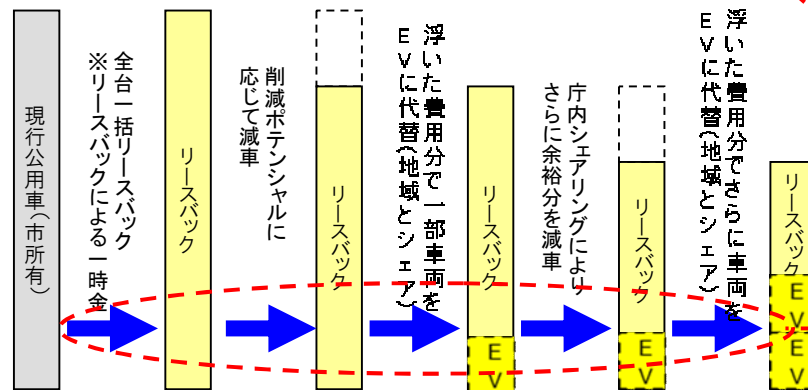
公用車を対象とした2つの改革が本事業のキモとなる要件

- EVを導入する → 現状の公用車運用実績を精査して「ムダ使い」をあぶり出し、この削減分を導入の原資とする
- 官民で共有する → 「官」の資産管理下にある公用車を、リースバックという手法を導入し、「民」の資産管理下に委譲する

事業の想定ロードマップ



想定される導入プロセス



スタートとゴールをつなぐために、いつ、どのように、誰と協力して進めていけばよいか？

どの年度のタイミングでアクションを起こすのが最適か？

庁内の関連部門間の慎重な調整計画と着実な実施が重要課題となり、次年度に庁内検討会議の設立・運営を検討